

神経変性疾患およびてんかんの創薬標的性検証を目的とした病理学および生化学的研究に関する情報公開

1. 研究の対象	2001年4月1日以降2021年12月31日までに、新潟大学脳研究所病理学分野で病理診断されたアルツハイマー病、パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、てんかん、および中枢神経疾患をもたない患者さんで、脳組織の研究利用について承諾をいただいている患者さん（新潟大学研究等倫理審査申請番号：2018-0191）。
2. 研究目的・方法	<p>超高齢化社会を迎え、認知症をはじめとした神経疾患患者の急増は深刻な社会問題となっています。アルツハイマー病（AD）、パーキンソン病（PD）およびてんかんは患者数の多い神経疾患ですが、未だその発症メカニズムには不明な点も多く、また、有効な病態進行を抑制する治療薬も存在しません。本研究を通じ、新潟大脳バンクの神経疾患患者由来組織を供与頂き、病理学的・生化学的手法を用いて、創薬標的候補分子やその機能パスウェイに関与する分子の解析をすることで、疾患の理解を深めるとともに治療コンセプトの検証を行います。これにより、創薬標的の妥当性を確認し根本的治療薬の創生に繋がるものと期待されます。</p> <p>具体的な実験内容は、研究課題に関わるタンパク質・mRNA・脂質の量や分布を生化学的および組織学的解析で確認することです。</p>
3. 研究に用いる検体・情報の種類	新潟大学脳研究所から、個人が特定されないように匿名化されたうえで、アルツハイマー病、パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、てんかんの患者さん、および中枢神経疾患を持たない患者さんから病理解剖にて採取した脳組織（パラフィン包埋及び凍結）および臨床情報（年齢、性別、疾患名、罹病期間、中枢病理所見）の提供を受けます。武田薬品工業株式会社では、個人を特定する個人情報提供を受けません。また、新たに取得することも致しません。
4. 研究期間	2018年10月5日～2026年3月31日
5. 外部への資料・情報の提供について	<p>提供された検体の一部は株式会社徳島分子病理研究所に解析委託試験に供する可能性があります。</p> <p>また得られたデータを国外のタケダグループ会社、事業提携会社や業務委託会社、規制当局、研究機関や医療機関に提供することがあります。</p>
6. 共同研究機関・研究の責任者	新潟大学脳研究所病理学分野 教授 柿田明美 メールアドレス：kakita@bri.niigata-u.ac.jp
7. お問い合わせ先	<p>対象の試料がこの研究に使用されることについて患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。</p> <p>武田薬品工業株式会社 リサーチ ニューロサイエンス創薬ユニット 主席研究員 松井英起 メールアドレス：hideki.matsui@takeda.com</p>